

教科に関する調査の設問別の分析結果

「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 61

6

次の1～4の会話文の()にあてはまる最も適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- 1 A : What () Akiko and Ken do on Sunday?
B : They play basketball.

ア is イ are ウ do エ does

【出題の趣旨】

文中の主語や動詞、答えの文に応じて、適切な疑問文になるよう、be動詞、助動詞 do(does) の中から適する語を選ぶことができるかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

エ 文法事項 (ア) 文
d 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞(can, do, may など)で始まるもの、or を含むもの及び疑問詞(how, what, when, where, which, who, whose, why)で始まるもの。

	正答率
本校	21.1%
広島県	21.3%

解答類型	1	2	3	4	無解答
本校の割合 (%)	21.1	28.9	28.9	18.4	2.6

この問題を解くために必要な力

- 一般動詞の疑問文の文構造を理解する力。
- 主語が単数か複数かを判断し、疑問文を作るために必要な助動詞が do か does かを判断する力。

誤答分析

解答類型2と3について

- 文中の do が「する」という意味の動詞であることが理解できていない。それゆえに、一般動詞 do の文であり、その疑問文なので()には do か does が入ると判断できていない。また、文中に do があるので、もう一度 do を使うことはできないと判断したとも考えられる。
- 解答類型2を選んだ生徒は、()の後ろの Akiko にだけ注目して主語が1人だと判断し、is を選んだと思われる。
- 解答類型3を選んだ生徒は、主語が Akiko と Ken の2人だという正しい判断はできているが、be動詞の中での選択をしまい、are を選んだと思われる。

解答類型4について

- 一般動詞 do の文であり、その疑問文なので()には do か does が入ると判断はできているが、()の後ろの Akiko にだけ注目し、主語が1人だと判断して does を選んだと思われる。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 61

【单元名】 Unit6 「グリーン家の人々」 (第1学年)

調査結果からみる課題

【課題となる力】

文中の主語や動詞，応答文の意味を捉え，適切な語を選択して疑問文をつくる力。

【指導上の課題】

一般動詞と be 動詞が共に動詞であり，文中で一緒に用いることはできないと理解させる指導が不十分である。

一般動詞の疑問文では，主語によって助動詞 do か does を用いることを理解させる指導が不十分である。

指導改善のポイント

主語が誰か，何人かに注目し，文の意味を考えて，正しい疑問文をつくる。

【指導の工夫】

写真や色別単語カードを使って，視覚的にも文構造を理解できるようにする。さらに，語順ドリルで繰り返し書くことによって，文構造を理解できるようにして定着を図る。

身近な先生を話題にするコミュニケーション活動の中で使用させることで定着を図る。

写真や色別単語カードを使って，視覚的にも文構造を理解できるようにして定着を図る。

	[青色] 主語 (～は)	[桃色] 動詞 (…する)	[三人称単数現在形の <u>s</u> は主語と同じ青色]
写真	Ms.Sakai	likes	light blue.
写真	Ms.Sakai and Mr.Maruyama	live	in Sunami.
写真	She	has	a sister.

身近な先生を題材にするコミュニケーション活動の中で使用させることで定着を図る。

〔活動〕幸崎中学校の先生に関する色々なうわさから，事実を探し出す。

<u>Does</u>	<u>Ms.Sakai</u>	like	light blue?	→ Yes, <u>she</u> does . (事実)	
				→ No, <u>she</u> doesn't .	
<u>Do</u>	<u>Ms.Sakai and Mr.Maruyama</u>	live	in Sunami?	→ Yes, <u>they</u> do . (事実)	
				→ No, <u>they</u> don't .	
<u>Does</u>	<u>she</u>	have	a sister?	→ Yes, <u>she</u> does .	
				→ No, <u>she</u> doesn't . (事実)	
				<u>She</u> has a brother. (事実を伝える)	

三原市立幸崎中学校第1学年 英語科学習指導案

単元名：Unit6「グリーン家の人々」

1. 日	時	平成21年10月6日(火)第5校時(14:00 ~ 14:50)
2. 場	所	4階学習室
3. 学	級	第1学年A組(男子16名 女子12名 計28名)
4. 単元名・教材		Unit6「グリーン家の人々」

単元について

本単元では、主に三人称単数現在形のs(三単現のs), does を使った疑問文と否定文を学習し、友だちや家族のことを紹介したり尋ねたりできるようにする内容である。

写真や絵の中の人物について、より具体的で正しい情報を取り入れた説明文を書き、伝え合うことでコミュニケーションを図ることがねらいである。

調査結果からみる課題

<誤答分析から>

文中の動詞が、一般動詞do「する」であり、主語が複数であるので、疑問文をつくる場合、助動詞のdoを主語の前に置く必要がある。しかし、doが「する」という意味の動詞であることが理解できていないため、解答として助動詞のdoが適切であるという判断ができていない。また、文中に動詞としてのdoがあることで、もう一度doを使うことはできないと判断したとも考えられる。

この問題で生徒が判断して解答を選択しなければならないポイントは2つある。1つ目は、be動詞か一般動詞かということである。2つ目は、主語が単数か複数かということである。動詞が、普段使われている動詞likeやplay、主語がyouや他の代名詞であれば、その疑問文はdoを使うという判断が比較的容易だったかもしれない。主語が三人称単数だと理解してdoesを選ぶ誤答や、doが「する」という意味の一般動詞だと理解しておらず、be動詞のareやisを選ぶ誤答がみられる。

このことから、文中の主語や動詞、応答文の意味を理解し、適切な語を選択して疑問文を作る力に課題があると考えられる。

<指導上の課題>

一般動詞とbe動詞が共に動詞であり、文中で一緒に用いることはできないと理解させる指導が不十分である。

一般動詞の疑問文では、主語によって助動詞doかdoesを用いることを理解させる指導が不十分で

ある。

指導改善のポイント

(1)「ひろしま学びのサイクル」との関連について

ひろく知識・技能を習得する授業

〈しっかり教える〉

写真や色別単語カード、「さびしいS」という覚えやすいキーワードを使うことによって、主語の人数（単数が複数）と、それによる動詞の語形変化（三人称単数現在形のs, does, doesn't）を理解し、正しい文を作ることができるような指導の工夫をする。

〈じっくり考えさせる〉

疑問文やその答えとなる文を個人やグループで作らせ、なぜそうなるのかを人に説明する時間を与えることで、確かな理解と定着を図る。

〈はっきり表現させる〉

興味関心の高い身近な内容を扱ったコミュニケーション活動の中で使わせることで、正確に伝えようとする意欲と、事実を知ろうとする意欲を高める。

(2)「ことばの教育」との関連について

「言語技術」を活用した指導を通して、生徒に付けたい力は次の通りである。

会話の流れから、適切な語を選んで文を作る場面

・・・ 主語と動詞を明らかにして書く力

単元の目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・新しく学習する文型を含む英文の内容を理解しようとしたり、それらを使って表現しようとしたりしている。・先生や友だちのことを具体的に複数の文で書こうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・三人称単数現在形の文を用いて、身近な人について紹介する英文を書くことができる。・文字や符号に注意すると共に、書かれた内容が伝わるように工夫して音読できる。	<ul style="list-style-type: none">・会話を聴いて、情報を正確に聞き取ることができる。	<ul style="list-style-type: none">・一般動詞の三人称単数現在形（肯定文、疑問文と応答、否定文）の形・意味・用法を理解している。・文中の主語や動詞、応答文の意味から、疑問文を作るために必要な助動詞が何か理解している。・日本文化の歌舞伎と漢字について理解している。・国際都市トロントについて理解している。

指導と評価の計画

(全 10 時間)

次	学習内容(時数)	評 価					
		関	表	理	知	評 価 規 準	評価方法
一	・一般動詞の三人称単数現在形を知る。(1)					・一人称,二人称,三人称の概念を知り,一般動詞の三人称単数現在形の形を理解している。 ・新しく学習する文型を含む英文の内容を理解しようとしている。	振り返りシート
二	・幸崎中学校の先生について簡単な紹介をする。(1)					・一般動詞の三人称単数現在形(肯定文)の形,意味,用法を理解している。	ワークシート
三	・人についての尋ね方,それに対する答え方を知る。(1)					・一般動詞の三人称単数現在形(疑問文と応答)の形・意味・用法を理解している。	語順ドリル
四	・人がしないことを説明する表現を知る。(1)					・三人称単数現在形(否定文)の形・意味・用法を理解している。	語順ドリル
五	・人について述べる。(1)					・先生や友だちのことを具体的に複数の文で書こうとしている。 ・一般動詞の三人称単数現在形(肯定文,疑問文と応答,否定文)の形・意味・用法を理解している。	行動観察 作文
六	・人について質問して答える。 【本時】(1)					・文中の主語や動詞,応答文の意味から,疑問文を作るために必要な助動詞が何か理解している。	ワークシート
七	・会話を聞いて,リサについて知る。(1)					・会話を聴いて,情報を正確に聞き取ることができる。 ・日本文化の歌舞伎と漢字について理解している。	ワークシート
八	・会話を聞いて,コウジについて知る。(1)					・会話を聴いて,情報を正確に聞き取ることができる。 ・国際都市トロントについて理解している。	ワークシート
九	・作文 (1)					・三人称単数現在形の文を用いて,身近な人について紹介する英文を書くことができる。 ・新しく学習する文型を含む英文を使って表現しようとしている。	作文

+	・音読テスト (1)					・文字や符号に注意すると共に、書かれた内容が伝わるように工夫して音読できる。	音読
---	---------------	--	--	--	--	--	----

本時の学習

(1) 本時の目標

- ・文中の主語や動詞，応答文の意味から，疑問文をつくるために必要な助動詞が何か理解している。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 ウォームアップを行う。			
あいさつをする。 単語練習 (Unit6 Part1~3) 手拍子にあわせて練習する 1. T:英語 → S:英語 2. T:日本語 → S:英語 3. 早く言えた生徒から座る 文練習(Part1~3の基本文) 手拍子にあわせて練習する T:英語 → S:英語 Part1 三人称単数現在形の s Part2 疑問文と応答の does Part3 否定文の doesn't	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が言えているか様子を見ながら進めていく。 ・早く言えた生徒から座るときには，正確に大きな声で言えているかを確認する。曖昧な発音はその都度訂正をする。 ・テンポ良く進めながら，肯定的評価を入れ，集中力と意欲を持続させるようにする。 ・文練習では，大切な発音は少しゆっくり大きめに言うことで意識させる。 		
2 本時の目標を確認する。			

<p>今日のねらいを確認する。</p>			
<p>do, does を使いわけて, うわさから事実を探し出すことができる!</p>			
<p>三人称単数現在形の s が必要な文の確認をする。</p> <p>(写真と色別単語カードを使って構造的な板書をする)</p> <p>1. 酒井先生の写真を黒板にはる。 うわさ 酒井先生は水色が好きだ。</p> <p>2. うわさを英文にする。 酒井先生は 好きだ 水色が Ms. Sakai likes light blue. (1人) → さびしいs!</p> <p>3. 丸山先生の写真を追加する。 うわさ 酒井先生と丸山先生は 須波に住んでいる。</p> <p>4. うわさを英文にする。 酒井先生と 丸山先生は 住んでいる 須波に Ms. Sakai and Mr. Maruyama live in Sunami. (2人) → さびしくない! (sはいらない!)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「幸崎中学校の先生たちのうわさ」という設定によって, 生徒の興味関心を高める。 ・英語の文構造を意識させるために, 英語の語順でも日本語を提示する。 ・生徒が発表した文を板書する際, わざと動詞の s を書かずに間違えたものを板書する。生徒から「違うよ」と指摘が出たときに, 「どこがどう違うのか」, 「なぜか」と問うことで, さらに考えさせ, 正確に理解させる。 ・全員がわかるまで, 隣同士や班で教え合うよう時間をとる。主語が, 三人称単数(特別な自分 I(私は)と, You(あなたは)以外で1人)のときは, 「1人でさびしい」から「さびしいs」が動詞につくと, 全体で覚えているキーワードを使って, 支援の必要な生徒にも理解しやすいような説明を入れる。 		
<p>コミュニケーション活動で使う他の動詞を中心に, 語形変化を確認する。</p> <p>・ play → plays ・ have → has ・ teach → teaches ・ go → goes ・ do → does</p> <p>Do, Does を使いわけて, 疑問文をつくる。(一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかったかどうか挙手させて, 全員の手が挙がったところで, 個人発表させ, 全体で共通理解する。 ・ <u>s</u> だけでなく, <u>es</u> がつく動詞 (teach など) や, have は haves ではなく, has と変化することを強調して教える。 ・ 間違ってしまうと違和感を感じるくらい, 繰り返し口頭練習することで定着させる。 ・ もう一度, 本時のねらい「うわさから事実を探し出すこと」を確認し, そのために必要な疑 		
<p>3 友だちと話をして事実を探し出す。</p>			
<p>文にする。</p> <p>B: 答え方も確認する。</p> <p>A: うわさ 酒井先生は水色が好きですか。 Does Ms. Sakai like light blue? Doくんがさびしいsをとって Does になったよ!</p>	<p>1) をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ, うわさ では Does で, うわさ では Do なのかをしっかりと考えさせる。その区別が説明できるようになるまで, ペア 		

<p>B : → はい, 好きです。 Yes, <u>she</u> does.</p> <p>→ いいえ, 好きではありません。 No, <u>she</u> doesn't. (does not)</p> <p>Does ? で聞かれたら does で答える !</p>	<p>や班で話し合う時間をとる。主語が単数か複数かしっかり理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Does で聞かれたら does で答え, Do で聞かれたら do で答えることを強調する。 ・応答文にするときに, 主語を固有名詞(名前)から代名詞にすることをあわせて指導する。 ・they (彼らは) は, 新出単語なので, 発音も含めて意味を丁寧に説明して理解させる。 ・疑問文なので, 語尾をあげて読むように意識させる。 			
<p>A : うわさ 酒井先生と丸山先生は須波に住んでいますか。 Do Ms. Sakai and Mr. Maruyama live in Sunami?</p>		<p>B : → はい, 住んでいます。 Yes, <u>they</u> do.</p> <p>→ いいえ, 住んでいません。 No, <u>they</u> don't. (do not)</p>	<p>C : 口頭練習</p>	<p>3 友だちとペアになって話をし, 事実を探し出す。</p>
<p>幸崎中学校の先生のうわさから, 事実を探し出す活動。</p> <p>板書で確認した酒井先生のうわさとその事実, もう一つ他のうわさをプリントで確認しながら, 活動で使う会話文として練習する。</p> <p>4人の先生の写真を黒板に貼る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントA配布 <p>自分が担当する先生のうわさを読んで内容を理解し, Do, Does を使いわけて疑問文にする。(個別)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横列は, 同じ先生のうわさを印刷したプリントを使う。 ・疑問文にできたら, 横隣の友だちと正しく書いているか確認する。 ・答え方も, 練習として書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・質問の仕方, その答え方を, 自信をもって言えるように口頭練習を繰り返す。 ・どの先生のうわさが出るのか, 写真を提示して関心を高めた上で, 自分はその中の誰のうわさを確かめるのか, プリントを見て確認させる。 ・Do, Does どちらを使っているかチェックして, 間違っている生徒には, 主語の確認をさせる。支援の必要な生徒には, 板書している文を参考にするよう指導する。 ・後で縦列でペアになって活動するので, わからないことは, 同じ情報を知っている横ペアに聞き, 縦ペアの友だちには, プリントを見せないよう指導する。 	<p>文中の主語や動詞, 応答文の意味から, 疑問文をつくるために必要な助動詞が何か理解している。</p>	
<p>【活動の説明手順1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントA(質問の仕方) <p>自分が確かめるうわさが書いてあるのはプリントAであること。</p> <p>しっかり相手の目を見て声をかけ, 自分で作った疑問文で, 3つのうわさについて質問すること。</p> <p>友だちが答えてくれたら, 左横にある()に, 事実であれば を, 嘘であればxを書き入れること。</p> <p>正しい情報を教えてくれたときは, それを記入すること。</p>				

(プリント)

うわさ Ms. Ono lives in Saijo.

→Does Ms. Ono live in Saijo?

→Yes, she does. 事実 ()

→No, she doesn't. 嘘 (×)

うわさ Ms. Ono and

Mr. Noumi like red.

→Do Ms. Ono and

Mr. Noumi like red?

→Yes, they do. 事実 ()

→No, they don't. 嘘 (×)

うわさ Ms. Ono plays the guitar.

→Does Ms. Ono play the guitar?

→Yes, she does. 嘘 (×)

→No, she doesn't. 事実 ()

She plays the piano.

事実を相手に伝える

縦列でペアになっとうわさが事実か確かめる。

・プリント B 配布

わかったことをプリントに書いてまとめる。

・個人でまとめた後で、4人班になって確認する。

・会話の途中に I see. や Well. 最後に Thank you. あるいは See you. などと声をかけ、できるだけ会話をつなげるようにする。

・正しく言えていない生徒には、横ペアの生徒が協力するよう指導する。

・得た情報が正しく理解できていない生徒には、縦ペアの生徒が協力するよう指導する。

・常に動いて全ペアの様子を見てまわり、発音やつづり間違いがないか確認し、あった場合はその場で修正する。

【活動の説明手順 2】

・プリント B (答え方)

友だちが聞いてくるうわさの右横に、答えとなる文が書いてあること。

友だちは、あなたが知っている情報を知りたくて質問してくるので、質問を聞きとったら、大きな声ではっきりと答えること。

嘘の場合は、その下に正しい情報が書いてあるので、相手に正確に伝えること。

・疑問文と一緒に考えた横ペア、質問し合った縦ペアを1つの班として、内容の正しさや、活動の結果等を確認させる。

・正しく書けていない生徒には、班員全員で協力して点検し合い、全員が書き終わったら班長に挙手で報告するよう指導する。

・板書に注目させて、授業の内容を振り返るよう口頭で説明する。

【ポイント】

主語の人数に注目する。

主語が1人のとき、動詞に「さびしいs」がついているときは、Do くんが助けてくれて Does になる。(動詞は原形に戻る。)

文の始めにくるので、Do も Does も D は大文字。質問する文だから、最後はクエスチョンマーク。

答え方は、Do で聞かれたら do で答える。Does で聞かれたら does で答える。大文字と小文字の違いに注意する。

検 証

<p>ついて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Does Ms.Sakai like light blue? →Yes, <u>she</u> does. →No, <u>she</u> doesn't. (<u>does not</u>)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>Do Ms.Sakai and Mr.Maruyama live in Sunami? →Yes, <u>they</u> do. →No, <u>they</u> don't. (<u>do not</u>)</p> </div> <p>評価問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>A : Do か Does を () にあてはめる問題 (5 問) 1. () Mr.Tagawa play the guitar? B : 応答文としての don't doesn't を () にあてはめる問題 (2 問) 1.Does Ms.Miyake have two sisters? Yes, she ().</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>C : 新たなうわさを疑問文に書き換える問題 (1 問) 1.Mr.Noumi plays the violin. ()</p> </div> <p>自己評価をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい達成度 (4 段階) わかったこと。 わからなかったこと。 努力したこと。 次は達成したいこと。 その他 (感想・英作文)</p> </div>	<p>・振り返りシートで個別に活動を振り返らせる。 ・肯定的評価をし、できるようになったことを中心に振り返りながら、生徒が満足感や達成感を感じるようなまとめをする。</p> <p>・今日学習したこと、できるようになったことが次回につながり活用できることを話し、意欲付けをして終わる。</p>	<p>文中の主語や動詞、応答文の意味から、疑問文をつくるために必要な助動詞が何か理解している。</p>	<p>評価 問題</p>
<p>5 次時の学習内容を確認する。</p>			
<p>次回は、リサのことを説明する。 内容を聞いて、リサについて知る活動を行う。 今日の宿題 「自分で確かめたうわさと事実、友だちとした会話を、自学帳 1 ページを使ってわかりやすくまとめる。」</p>			

検証の方法

主語によって助動詞である do と does を適切に使い分けられているかをみた。2 年生で実施した基礎基本定着状況調査で正答率の低かった〔適切な疑問文になるよう、助動詞 do(does) の中から適する語を選ぶ問題〕の類似問題を作成し、適切に選ぶことができるかどうかをみる。
 (授業終了時の評価テストで実施)

A: 次の文が質問する文(疑問文)になるように,()に Do か Does を入れなさい。

- 1 () Mr. Tagawa play the guitar?
- 2 () Judy and Mike study Chinese?
- 3 () she have a brother?
- 4 () Nick live in Miyaura?
- 5 () they like English?

B: 次の会話文が正しい文になるように,()に適する語を書きなさい。

- 1 Does Ms. Miyake have two sisters?
Yes, she ().
- 2 Do they teach math?
No, they ().
they teach Japanese.

C: もうひとつうわさがありました!

事実か確かめよう Mr. Noumi plays the violin.
ヴァイオリン

質問する文(疑問文)に書きかえなさい。

検証結果

生徒 28 名の各問題のねらいと正答率, 気付きは, 以下のとおりである。

問題 A . 疑問文に必要な助動詞 Do か Does を適切に選ぶことができる。	正答率 (89%)
問題 B . 疑問文に対して do, does を使って適切に答えることができる。	正答率 (43%)
問題 C . 3 人称単数現在形の S を含む肯定文を疑問文に書き換えることができる。	正答率 (96%)

- ・ 問題 A では , they のときの助動詞を Does にしている生徒がいた。
- ・ 問題 B では , 誤答として 3 つの類型に分かれる。
 - 1 . 主語が they でありながら , doesn't で答えた生徒。
 - 2 . No, they don't. が正解だが , do と答えて否定形になっていない生徒。
 - 3 . 文中でありながら , Does, Don't と大文字で書いた生徒。
- ・ 問題 C では , 疑問文に書き換えても動詞が原形にもどっていない生徒がいた。

分析・考察

今回の評価問題は、順に難易度が増すように A B C にわけて大問 3 つで構成した。しかし、最も難しいと予想した肯定文から疑問文への書き換えを問う問題 C よりも、Yes, No, で答える文において助動詞 do, does を使って答える問題 B の正答率の方が低かった。これは、授業の中でどれだけ繰り返し使用したり注目したりしたかが、定着度に影響することを表している。さらに、誤答の類型を見ても、do, does の使い分けの間違い以外に、否定の形になっていないものや、疑問文を受けてそのまま書いたために文中ながら大文字で書いている等の、新たな課題も見つけることができた。

成果は、2 つある。1 つ目は、覚え方を工夫したことで、間違いやすい三人称単数現在形の s の文が予想していたよりも定着していることである。2 つ目は、単語の綴りを間違えて書く生徒が減っており、6 月に調査したときは 6 名だったのが、今回は 1 名だったことである。もちろん同じ問題ではないが、日々の宿題ノートで書き間違いが減ったこと等を見ても、1 学期に感じた「正しく書くこと」の課題は改善されてきている。これは、宿題ノートによる家庭学習での復習と、授業でできる限り発音とあわせて綴りを導入したり、覚え方を指導したりしていることが影響していると考えられる。今後も、継続して指導していきたい。

今回は、比較的理解しやすい動詞を使って学習した。しかし、「基礎・基本」定着状況調査のように、助動詞との区別が難しい動詞の do や、be 動詞との区別も理解できるような指導が必要になってくる。今後、疑問詞も多く出てくることから、復習の時間や教え合いの時間を確保しながら、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するような指導を取り入れていくようにしたい。